

令和4年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人敬寿会	代表者	施設長 山口 まゆみ	法人・事業所の特徴	地域の中で、多機能を拠点とし、利用者一人一人の生活に合わせ個別支援に重点を置いていたサービス提供をしています。利用者の「～したい」の気持ち「笑顔」を引き出し、機能の維持向上に努め自立した生活と生活の質が向上できるよう支援しております。
事業所名	小規模多機能型居宅事業所鈴川敬寿園	管理者	大類 裕二		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	6人	1人	1人	1人	人	6人	人	15人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	各項目目標に関しては達成可能な目標を定め、各月に振り分けし中間で進捗状況を確認しながら毎月の目標を全員ができるようにする。	目標どおりに各月に分け取り組んだ。中間での進捗状況についてはユニット会議で確認できるよう書面にて報告を行う事で全員が取り組むことができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各目標に対し事業所と職員の認識が共有されている事が報告書にて見て取れる。</li> <li>コロナ禍のため運営推進会議の開催も文書によるものが増えたため理解しづらい所がある。</li> <li>事業所評価は難しいことです。項目によっては「できていない」が多いこともあるが現状を把握することが大切であり、改善につなげてほしい。</li> </ul>	目標達成するために、事前の打ち合わせを行い、各月に振り分けた計画の中間での進捗の確認とアドバイスを行い、全員が目標に向け意欲的に取り組めるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	コロナ対策はその時の状況に合わせ継続していく。 ユニット内のしつらえや飾りつけなど季節を感じられるよう工夫して行う。明るく開放的な雰囲気づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ対策として、一日2回の検温、手洗い、アルコール消毒テーブルにパーテーションを設置し、定期的に換気を行った。</li> <li>季節を感じられる取り組みとして「桜の切り絵」「笹に短冊飾り」「お祭り飾り」「クリスマス飾り」「ハロウィンかざり」「門松・鏡餅」など雰囲気づくりを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で事業所内の立ち入りはできなかったが、敬寿園だよりなどで居心地の良い明るい雰囲気づくりができていると感じた。</li> <li>一つの事故の背景には何百ものヒヤリハットがあり、気づき、対策を立て安全に過ごしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節ごとの飾りつけを行い明るい雰囲気づくりを行う。</li> <li>利用者間の関係性を配慮し過ごしやすい環境づくりを行う。</li> <li>ヒヤリハットをもとに事故を防ぐ環境づくりを行う。</li> </ul>

C. 事業所と地域の かかわり	コロナの状況にもよるが、地域の文化祭や100歳体操、地域の防災訓練などにも参加する。 介護についての相談の受付なども積極的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、外部へ出かけてのイベント等には参加できなかつた。地域での文化祭やイベント等も開催されなかつた。</li> <li>・介護についての相談については管理者が数件電話での相談を受けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため各種地域イベント等も開催できていない状況。その中でもできる事をやっていると思う。</li> <li>・各事業所の広報回覧文書があれば地域住民も理解しやすいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対策をしっかりと行いながら個別、もしくは少人数で地域で出かけ関わりを持てるように取り組む。</li> <li>・地域に向け施設の取り組みがわかる広報誌の作成を行う。</li> </ul>
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	コロナの状況によるが個別支援を中心に本人のなじみの場所ややりたい事の実現を支援していく。生活を支える取り組みとして、買い物同行や通院支援なども積極的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人のなじみの場所などには個別に外出支援する事ができた。 (墓参り、買い物、美容院、通院) しかし、ある程度限られた方でしか対応できなかつた。</li> <li>・地域の行事には開催もなく参加できなかつた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みについては実感できていない。</li> <li>・コロナ禍のため仕方ないことだと思う。</li> <li>・周辺住民で心配な案件があれば地域包括支援センターを通し、民生児童委員と連携している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の「～したい」の実現や日常生活を支える取り組みとして個別支援を積極的に行う。</li> </ul>
E. 運営推進会議を 活かした取組み	事業所の報告を行う際、事業所内で行ったイベントやレクリエーション、普段過ごしている姿を画像としてみて頂けるよう取り組む。また、意見をいただき、質の向上につながるよう取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の取り組みについて運営推進会議で報告し、敬寿園だよりを発行している。</li> <li>・サービスの手順書を作成し、職員が同じレベルでサービスを提供できるよう取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告文書で事業所の職員が誠実に取り組んでいる事が理解できた。</li> <li>・外部からの意見は大切だと思うので意見をとり入れて改善してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議で地域の皆様よりの意見をとり入れ、より良い施設になるように取り組む。</li> <li>・地域の情報を積極的に伺い地域との関わりを増やしていく。</li> </ul>
F. 事業所の 防災・災害対策	コロナの状況にもよるが、地域の方にも参加を呼びかけ防災訓練を年2回開催する。事業所を含め施設全体での連携が取れるような防災訓練にしていく。 地域の防災訓練への参加を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練については年2回行い1回は町内会会长・副会长、消防署職員からも参加して頂き行う事ができた。</li> <li>・地域の防災訓練には参加できなかつたが今後は参加し、地域との連携を取っていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練には町内会会长と副会长が参加している。</li> <li>・不審者の対応についても十分な体制作りが必要と思う。</li> <li>・災害時は頼りになる存在になってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練については年2回以上開催し地域の方や消防署にも参加を呼び掛ける。</li> <li>・地域との連携が深まるよう、地域の防災訓練にも参加していく。</li> </ul>